

ヒアリングにおける論点等（委員発言要旨）

「地域防災力を結集した災害対策」

■ 災害時における市民・行政の具体的な役割が想定できない。

- ・いざというときに何をしたらよいのかはよくわからない。市民一人ひとりが簡単にでもイメージできれば、もう少し動きやすいのではないかと思う。
- ・いざというときに誰が何をするのか、市民には意外と理解されていないのではないか。市が音頭を取って、そういう組織作りを市はしていないのではないか。
- ・現代は「個」の時代となっており、ひとりいるときにどう行動すればよいかなど、研修の内容も見直す必要があるのではないか。
- ・札幌は災害が少ない街であり、何に対して備えればよいかがわかりにくい。
- ・パンフレットはたくさんあるが市民目線のものがない。災害発生時の防災計画に基づいた行政の役割、市民の役割などを市民にわかりやすく伝えるべき。

■ 市民向けに効果的な意識啓発が必要ではないか。

- ・「災害時にはこれを見ればよい」というものがあると良い。災害のパターンが多すぎて、一つひとつを理解するのは困難。
- ・災害への備えを行っている人をモデル事例として、写真などを交えて紹介してはどうか。
- ・災害に対する備えをしている人の割合が高くなり、自主防災組織の組織率も高くなっているが、それが防災力の向上に繋がっているとは言い切れないのではないか。

■ 企業への働きかけが必要

- ・担い手不足の点で、パンフレットを配るだけでいいのか。企業にしても、大企業と違い、中小企業は何もしていない。町内会に無理やり入れなくても、中小企業への義務付けなどした方がよいのではないか。
- ・企業体ではなく、企業人＝市民と考え、意識を高めるべきではないか。パンフレットは文字ばかりなので、〇〇宣言などのように示してもらう方がまだよいのではないか。
- ・企業にどれくらいの備蓄があるのか、把握しているのだろうか。

■ 新しい枠組みによる自主防災組織の検討が必要

- ・これまでは、連絡所や連合町内会といった枠組の組織で、ある程度は回っていたのだろうが、今はもうこの枠組みは古いため、新しいパラダイム転換が必要ではないか。

■ 関係機関の連携が不安

- ・法体系にも問題があるのかもしれないが、災害時に所管間や近隣自治体、国や道との連携ができるのかという不安は残る。

■ しっかりした目標設定と評価の実施が必要

- ・市の方で目標設定、評価の設定をもっとしっかり行うべきではないか。評価が難しいとはいえ、目標設定とそれに対する効果ということにもう少し目を向けるべきではないか。

ヒアリングにおける論点等（委員発言要旨）

「文化芸術や地域ブランドなどを活かした観光魅力づくりの推進、
市民が多彩な文化芸術に親しむとともに、自ら作り上げる文化活動の振興」

■ 事業の本来目的の確認と評価が必要

- ・イベントの来場者数を増やすという量的拡充を質的な向上につなげていくための工夫が必要ではないか。
- ・一つのイベントの成功や来場者数にとられるのではなく、事業の本来の目的をしっかりと確認した上で、評価の手法自体を変えることが必要

■ シティプロモート戦略の明確化が必要

- ・札幌を売り込むための効果的なブランドイメージ、効率的な戦略を明確化する必要があるのではないか。

■ サッポロスマイルの明確な戦略に基づいた取組の実施が必要

- ・サッポロスマイルの目的と定義と使い方を示し、市民と観光客に対するアプローチをしっかりと分けた上で、明確な戦略に基づいた取組を行うべきではないか。
- ・サッポロスマイルのバッチを市民に配るなど、認知度を上げるとともに、市民に活用してもらう手法の検討を行う必要があるのではないか。

■ 新たな発想を取り入れた博物館の検討が必要

- ・博物館の検討に当たってはプラスアルファの発想力が必要ではないか。
- ・観光客が博物館を見るために札幌に来るというような、プロモーションができるような博物館を作るべきではないか。
- ・博物館の検討に当たっては、札幌にいるクリエイター、プロデューサーたちと連携し、創造的な側面も入れて考えていくべきではないか。
- ・博物館の検討に当たっては、空いた学校を利用するなど、既存の公共施設の活用の検討を行うべきではないか。

ヒアリングにおける論点等（委員発言要旨）

「魅力あふれる都市のまちづくり」

■ 市関係部局の連携が必要

- ・これからのまちづくりで留意すべき点として、都市計画部だけでなく、他の部局との連携を一層図ってほしいというところ。空き家、空きビルなどの対策は、都市景観の話だけではなく、他の部局との連携を一層図るべき。
- ・電柱の地中化や、河川の整備も広い意味で景観につながる取組。部局にとらわれない視点、発想を持って都市計画や都市景観の事業を幅広くやってほしい。

■ まちづくり事業の市民へのわかりやすい情報提供の充実

- ・まちづくりの事業は、市民に一番密接であるべきなのに、内容が市民に全然伝わっていない分野ではないか。ホームページを見てもさっぱりわからなかった。それこそ一枚の絵もなく、もっと伝え方自体を検討していくことが必要ではないか。
- ・都心に関して、何のためにこれをやるかということが非常にわかりにくい。よく読めば分かるのかも知れないが、市民はこまめで読まない。そうしたときに、なぜ都心に賑わいをつくらなければならないのか、キーワードが示されないとなかなか理解するのは難しい。
- ・まちづくり事業の連関性の説明は必要ではないか。全体のプランはあるが各事業に落とし込む段階で個別のものとなっているのではないか。地理的な連関というものではなく、市のまちづくり全体の中での連関、そして事業に落とし込んだときにどう生きているのか、また他の事業との共通性が意識されているか、ということになると弱くなってしまっているのではないか。

■ 都市景観の取組の成果をわかりやすく示すべき

- ・景観については、価値観によるところがある。なかなか評価しにくいところではあるが、都市景観をよくしていこうという目標に関しては、恐らく一致できるのではないか。景観については、そうした目標に向かっているかどうか重要だと思われる。
- ・歴史的な建造物に関して、市の助成などの取組にもかかわらず、取り壊しになるということもまだある。それをこうした事業の失敗と見るか、限界と見るか、対象外と見るか。去年は助成対象が4件あったとのことだが、それをもって成果があったと言えるのかも知れない。一方で、歴史的なもの以外では、市の取組が都市景観を守る一助になっている、という判断に持っていけるかどうか。
- ・啓発事業と言っても、景観を大事にしようというところまではできるが、どういふふうな景観にしようとは言えない。だから、景観について具体的に話が及ぶと、各論でいろいろな考え方が出てくるのだろう。
- ・景観という観点から統一感のある都心まちづくりの計画になっているかという点、なかなか見えにくい。

■ 都心のバリアフリー化の検証が必要

- ・地下歩行空間はいろいろなところにエレベーターがあるが、どこまで高齢者や障がい者、妊婦に優しいつくりになっているかという点では、疑問がある。